

法人よつば たより

No.12

発行：社会福祉法人 よつば

発行日：2021年 9月 1日

ホームページ：<http://www.kashiwa-yotsuba.jp>

☆ご挨拶

医療関係者・高齢者から始まった、コロナワクチン接種がやっと、職員や利用者の方にも順番が回ってきています。まだ感染への対応は継続する必要があります。油断やゆるみが生じないように、事業所ごとに確認をお願いしています。

そうした中で、「法人よつば」では、九月の「啓発講演会」の準備と、少し前に亡くなった利用者Sさんが生前に描いてこられた数多くの油彩画を、年末ごろに美術館と柏市の公的建物で開く「絵画展」の準備を始めています。

また職員の研修・学習のために、eラーニング「動画による学習(サポカレ)」を七月から始めました。初任者から管理者までのメニューを選択できます。普段の業務や人としての成長に役立つ研修の機会として活用します。

☆障害者の体験や思い

・我孫子市在住 Rさん

私が精神障害(統合失調症)になって、もう二十年以上になります。もうすぐ還暦に近くなりますので、以前のような気持の浮き沈みは少



なくなりました。今では自分のことが冷静に判断できると思っています。発病した若い頃には家族と一緒に暮らしていましたので、自分のことを理解してもらえず、しよちゆう揉めていました。私も家族も苦しい時期でした。

これ以上家族と一緒に暮らすことが出来なくなり、アパートでの一人暮らしを始めました。料理や買い物は何か自分でやれましたが、掃除が苦手で、ヘルパーさんに週二日来ていただきました。また、病院にお願いして、服薬管理と健康相談のために、訪問看護を付けて頂きました。病院のデイケアにも作業所にも通いましたが、人間関係で行き詰まり、長く続けられませんでした。そこで公民館の趣味講座に参加しました。周りには健常者の方たちでしたので、気を遣ってもらい助けられました。

それでも孤独感は解消されませんでした。喫茶店に行つてはお店の人と話すことで幾分か助かりましたが、飲み物などのお金がかかりました。それで、家族や相談支援事業所とも相談の結果、我孫子市のグループホームへ入居となりました。寂しさは薄らいでも、調

子が悪い人に巻き込まれるときがあり、自分のペースを保つのは大変な時があります。そんな時は、散歩をしたり、音楽を聴いたり、知り合いに電話をしたり、早く寝たりしています。どこへ行っても問題は無くなりません。ですから以前教えられたように、「今日一日を生きることを大切にしよう」と自分に語りかけています。

☆家族の思いと願い

・柏市在住 Tさん

テーマ「転院する」とのことです。息子のことをお話しします。発病してからずっと通院していた柏慈恵大病院から、事情により個人の精神科クリニックに代わることになりました。そうと決まってから本人の不安が強くて、私もいっしよに通院することでやっとなんか安心しようです。そして市役所にも自分で行き、必要な手続きをしようとしたのですが要領がつかめず、私も一緒になって、通院の事や薬局の事や訪問看護などの手続きを、やっとなんか済ませることが出来ました。息子は悩みながらも、自分で決めたとおりにすることで納得し、結果私は頼まれたことだけ



を手伝い転院したクリニックへの通院に際し、最初は一緒に行ってほしいと頼まれましたので、同行しました。受付での息子のしつかりした受け答えに感心し、驚きました。私から得た情報の他に、自分でもネットやホームページを検索して、病院を代わることを決めようです。やがて一人で通院するようになり、帰宅して後、先生の印象を話して、「ちゃんと僕の目を見て、会話を大切にしている先生だ」と話してくれました。「パソコンも脇において、患者の顔を見ている」と話してくれた時は、その冷静さに驚きました。二十年間の間に、私の知らない間に成長していることに気づかされました。病院を代わることの大変さは、初めてでしたので、いろいろ考えることや、教えられることがありました。私が今思うことは、息子が望んだ時だけ、一緒に診察に同行し、電話でのやり取りを行い、情報提供をしたことを良かったと思っています。

☆発達障害者の



「当事者会」のその後・

前回のニュースで、当事者会を

始めたことをお知らせしました。我孫子市のCASや柏市・我孫子市・流山市・野田市の障害者窓口にも、当事者会のチラシを持参して、情報の提供を依頼しました。当事者の方たちの中には、仕事を持っておられる方が多くいますので、休日の日曜午後に開いています。まだ宣伝・周知の成果は見えませんが、当事者の方たちの交流の場を作り上げたいと願っていますので、ご紹介をお願いいたします。

・いつ 毎月第四日曜の

午後一時から

・どこで 流山市の初石公民

館にて

・問い合わせ 勝本まで

090-3696-1589

☆後見人を付けたいが、お金の負担が重い

精神障害者家族会「よつば会」で、いつも課題として挙げられるのが、「親亡き後」のことを、親が元気なうちに目処を付けておきたいということです。このためには、本人が相談相手や支援者を見つけておくのが良いのですが、本人は人間関係が苦手なため、いざという時のつながりを持って

いません。

このために後見人をと考えますが、後見人となってもらえる司法書士の方には、月額三万円ほどかかります。市民後見人の方でも、月額一万五千円ほどと聞いています。経済的に豊かな人なら、その程度の支払いは可能かもしれませんが、収入の少ない障害者にとっては、到底負担できる金額ではありません。たとえ生活保護の人であっても、自己負担は生じます。東葛地域の市町村を調べてみると、後見人への支払いの補助制度の有無は、バラバラです。もともと整っているのが松戸市であり、他の市はまちまちの状況です。高齢者が増加するのに伴う後見人の必要性が高まるのと同様、障害者も八〇・五〇の課題を抱えており、障害者の孤独・一人住まい・ひきこもり・支援の空白により、福祉サービスからも生活保護からも置き去りにされかねません。身体・知的・精神・発達・難病の方たちの家族会の共通する課題です。行政への働きかけは必須の課題です。

☆法人よつばの利用者募集

・就労継続B型 青い鳥(大津ヶ丘)と、よつば工房(柏の葉)いずれも数名の利用者を募集
・就労継続支援A型 かるのこ(柏市大井)お弁当を作る事業所です。数名募集します。

☆法人主催の啓発講演会

「障害者が地域で暮らすために、どんな環境が必要か」

期日 九月二十五日(土曜)
朝九時半から十一時半

会場 柏市アミューゼ柏
一階のプラザにて

講師 ひだクリニク

肥田裕久医師

事前予約制 (八十名まで)

問い合わせ・04-7199-7931

どうぞご参加ください



※よつば会家族会(柏部会)

日時:九月二十五日十二時

会場:パレット柏 コミュニ

※よつば家族会(流山部会)

会場:流山学習センター B101

日時:九月二十四日午前十時